

巻 頭 言



埼玉県知事 大野 元裕

渋沢栄一翁の精神による SAITAMA づくり

令和6年7月に、埼玉の偉人・渋沢栄一翁が肖像となった新1万円札の発行が開始されました。埼玉県では、この新1万円札の発行を県民の皆さんとお祝いするとともに、日本中が渋沢翁に注目するこの機会を捉え、渋沢翁が埼玉県の出身であることを、「渋沢といえば埼玉」として全国へ発信しています。渋沢翁は「近代日本経済の父」と呼ばれる日本が誇る実業家です。「民の力を強くしなければ、世の中の繁栄はない」という信念の下、生涯で500社を超える企業の設立に関わりと同時に、600もの教育機関や社会公共事業の支援に取り組みました。渋沢翁は忠恕（ちゅうじょ、真心と思いやり）を重んじ、経済と道徳を両立させた「道徳経済合一論」により、日本の経済発展・人材育成に大きく貢献しました。この活躍の背景には、激動の時代にヨーロッパ視察において世界を目の当たりにした経験があることも知られているところです。

現在の埼玉県も「人口減少・超少子高齢社会への対応」と「激甚化・頻発化する自然災害など、危機への対応」という時代の転換期における2つの歴史的な課題に直面し、これまでの常識が通用しない時代にあります。このような時代において、私は、多様な価値観を認め、様々な地域の人々の懸け橋となり、的確かつ柔軟に課題解決を図ることができる人材である「真の国際人」の育成が重要と考え、その育成に取り組んでいるところです。

主な取組として、既に2,000人を超える規模の留学生を海外に送り出した「埼玉発世界行き」奨学金による留学支援を継続するとともに、令和6年度には国内外で活躍できる人材を育成することを目指し、中高生が将来の留学や海外勤務を具体的にイメージできるオンラインプログラムを新たに実施しました。引き続き、若者が国際的な視野を持ち、世界の舞台で活躍できるよう人材の育成に取り組んでまいります。

また、本県の在留外国人数は、令和6年6月末現在で約24万9,000人となり、県民の約29人に1人が外国人となりました。日本人住民、外国人住民が共に暮らしやすい多文化共生の地域づくりがますます重要となっており、埼玉県では県民の方に対し、地域の中に暮らす外国人を支援するボランティア育成研修を実施するなど、多文化共生を推進する人材の育成に取り組んでおります。令和6年度には特に日本人と外国人の双方が歩み寄ってコミュニケーションがとれる「やさしい日本語」の普及を進めています。

これからも、埼玉県では、渋沢翁の精神を受け継ぎ、世界を舞台に活躍できる「真の国際人」の育成を進めるとともに、県民一人一人が異なる文化や価値観を認め合い、各々の能力を発揮できる多文化共生社会の実現を目指してまいります。